

これからの富山市のまちづくり～コンパクトなまちづくり～



コンパクトシティ富山
COMPACT CITY TOYAMA

<現状の課題認識>

- ①車を自由に使えない市民にとって、極めて生活しづらい街
(高齢化による交通弱者の増加、公共交通の衰退)
- ②割高な都市管理の行政コスト
(労働者人口の減少による財政力の低下、社会インフラの維持管理コストの増加)
- ③中心市街地の空洞化による都市全体の活力低下と魅力の喪失
(低未利用地の増加による税収の減少、活力の低下)

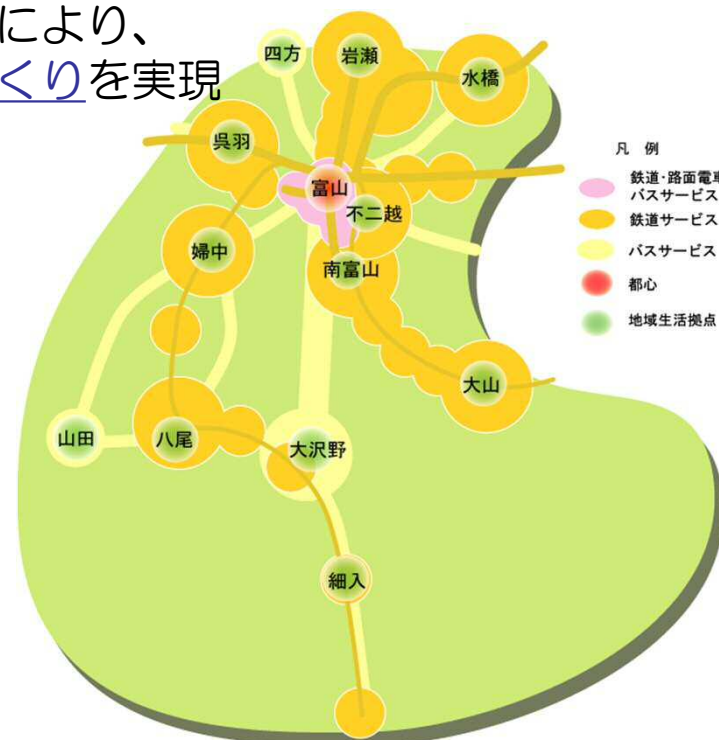


鉄軌道をはじめとする公共交通を活性化させ、その沿線に居住、商業、業務、文化等の都市の諸機能を集積させることにより、公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりを実現

<概念図>

富山市が目指すお団子と串の都市構造

- 串** : 一定水準以上のサービスレベルの公共交通
- お団子** : 串で結ばれた徒歩圏



中心市街地の活性化



中心市街地活性化の取り組み

第1期 中心市街地活性化基本計画（平成19年2月8日 全国第1号認定）

- 公共交通の利便性の向上
公共交通の活性化により、車に頼らずに暮らせる中心市街地の形成
- 賑わい拠点の創出
魅力と活力を創出する富山市の「顔」にふさわしい中心市街地の形成
- まちなか居住の推進
魅力ある都心ライフが楽しめる中心市街地の形成

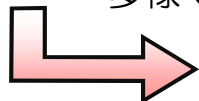
ハードを
主とした
基盤整備
(27事業)



第2期 中心市街地活性化基本計画（平成24年3月29日 認定）

- 公共交通や自転車・徒歩の利便性の向上
多様で質の高い移動環境が整備され、人が活発に動き回遊する中心市街地の形成
- 富山らしさの発信と人の交流による賑わいの創出
内外の活発な交流により富山らしい新しい文化が創造される中心市街地の形成
- 質の高いライフスタイルの実現
多様で質の高いライフスタイルが実現する中心市街地の形成

ソフト施策を
中心とした
質の高い
都市空間の形成
(66事業)



公共交通に加えて『自転車』の活用が極めて効果的

中心市街地活性化に向けた自転車活用の取り組み(1)



自転車市民共同利用システム (アヴィレ)

■ 共用開始

平成22年3月20日

■ 事業目的

中心市街地の活性化と回遊性の強化
CO2排出量の削減

■ ステーション設置箇所及び自転車数

中心市街地に計15箇所、150台設置

■ 利用時間

24時間、365日いつでも利用可能

■ その他

ICカードを利用したシステム

- ・ 利用者登録 (定期パス)
- ・ 短期パスの発行 (7日、2日、1日)
- ・ 富山ライトレール「パスカ」との連携



ステーション



ICパスカード



中心市街地活性化に向けた自転車活用の取り組み(2)

自転車利用環境の改善

道路管理者と交通管理者が連携し、都心部における歩行者の安全、自転車走行空間の確保を目指し、自転車レーンの設置や自転車歩行者道の整備などを推進

整備方法	整備箇所
自転車道の整備	
自転車レーンの設置 (自転車専用通行帯)	
自転車歩行者道における 走行位置の明示	
自転車歩行者道の整備	

自転車通行箇所の区分 (自転車歩行者道)

歩行者や自転車の通行が多い歩道において、自転車の走行位置の明示により通行箇所を区分

路面標示シート



通行してください
歩行者は民地側を



通行してください
自転車は車道側を



中心市街地活性化に向けた自転車活用の取り組み(3)



自転車の一方通行に関する社会実験

■事業目的

適正な自転車利用の啓発を行い、歩行者と自転車の安全性を高めるため自転車の一方通行とする社会実験を実施

■実施期間

平成24年7月9日～7月31日
午前7時～午前9時 ※土日、祝日を除く

■通行方向

自転車は車道側を一方通行
歩行者は建物側を通行

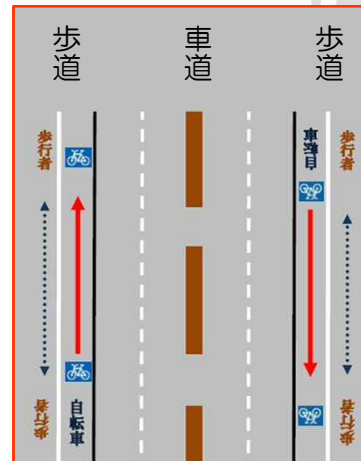
■実施区間

市道県庁線 歩道部 (約900m)



歩行者 自転車

実施状況



平面図



整備効果(1)

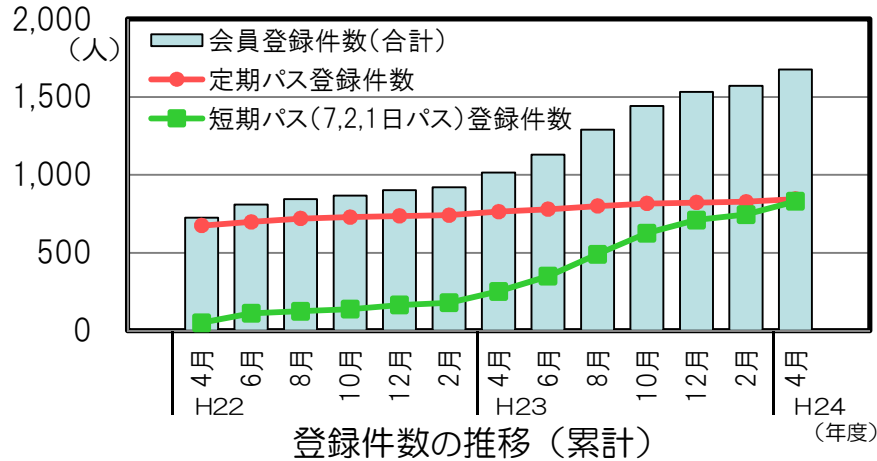


自転車市民共同利用システム利用状況

(1) 利用実績、登録件数

- 定期パス登録件数は、堅調に推移
- 短期パスの登録件数が大きく増加

登録件数	1,675名
1日平均利用回数	115回/日 (降雪期間：12月～3月を除く)

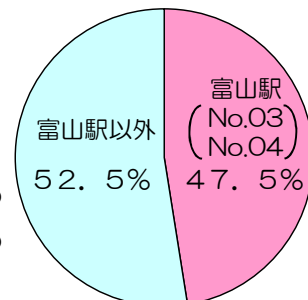


利用実績) 平成24年4月末時点

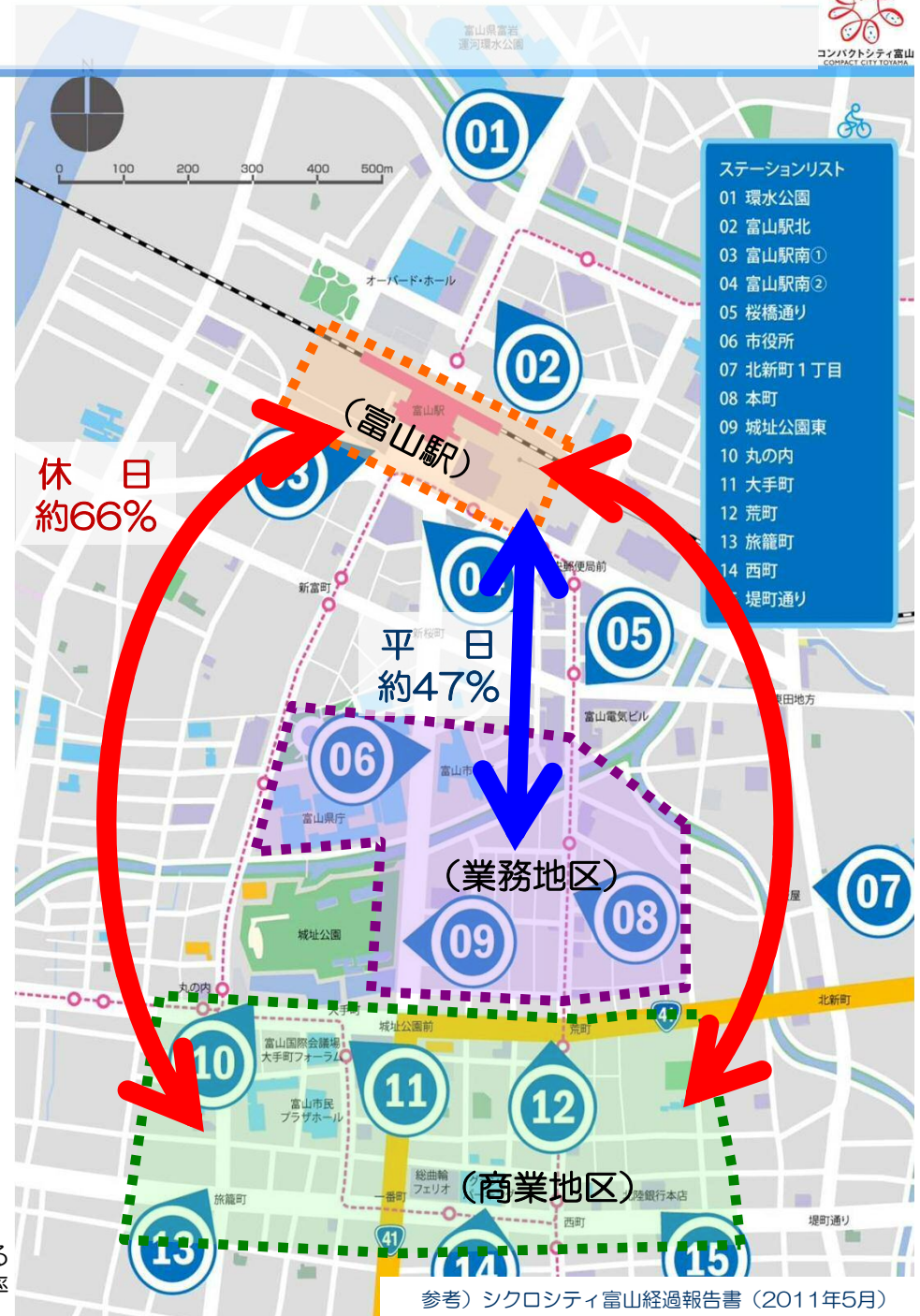
(2) OD特性

- 富山駅を基点・終点とした利用が全体の約半数
- 平日 富山駅 ⇄ 業務地区 約47%
- 休日 富山駅 ⇄ 商業地区 約66%

⇒ 通勤を中心とした利用の定着
回遊性向上



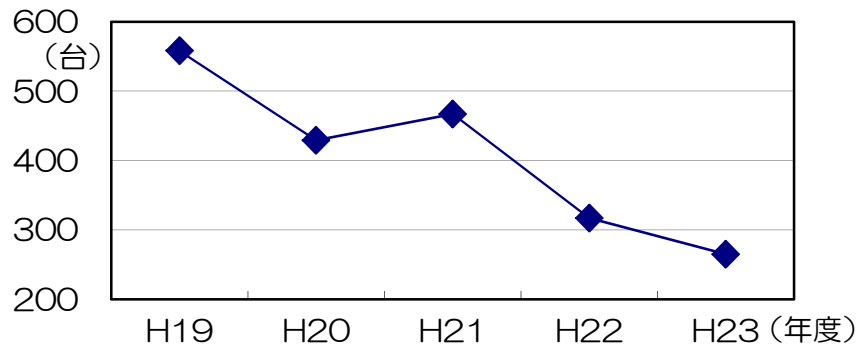
総トリップ数における富山駅の基点・終点比率



整備効果(2)

取り組みによる波及効果

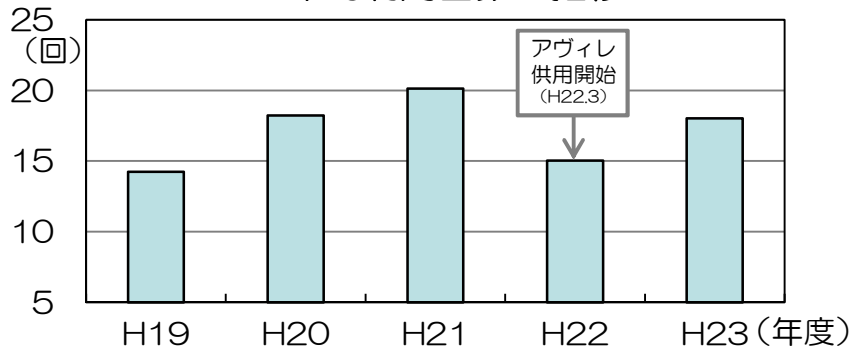
(1) 放置自転車の撤去台数の推移



○都心部における放置自転車の撤去台数は過去5年間で半数まで減少

(2) 富山市レンタサイクル利用状況

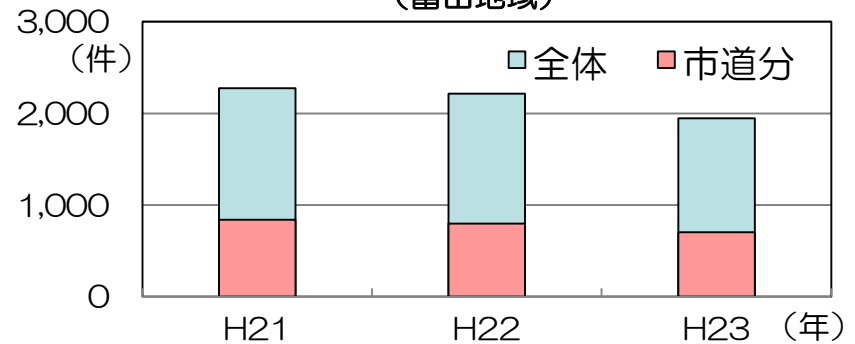
1日平均利用回数の推移



○レンタサイクルの利用者はアヴィレ供用後も概ね堅調に推移

(3) 自転車・歩行者に係る事故件数の推移

(富山地域)



○近年、自転車・歩行者の事故件数は減少傾向で推移している

市民共同利用システムの定着
放置自転車の減少
自転車・歩行者事故の減少
レンタサイクルの堅調な利用



効果 ○都心部の回遊性向上
○都市景観の保全
○安全・快適な利用環境の形成
○自転車利用の促進 など

背景として

市民への自転車の活用と適切な利用に対する意識の向上が大きく寄与

まとめ

今後、さらなる自転車の活用により

中心市街地活性化に向け、自転車がより安全で快適に利用できる質の高い都心空間を形成



ハード施策に加えて

市民に対する意識啓発に関する施策を併せて実施することが極めて効果的



「富山市自転車利用環境整備計画」 平成23年3月

○走行環境の整備

●利用促進の取り組み

◇自転車の環境面や経済面、健康面に関する優位性の提示による利用啓発

○駐輪場環境の整備

●ルール・マナーの意識啓発

◇広報媒体を活用した自転車ルール・マナーの啓発
◇歩行者やドライバーへの意識啓発
◇小学生～高校生への意識啓発
◇自転車利用者への安全点検の徹底

都心部における質の高いライフスタイルの実現